

# カニの寝そべり観察

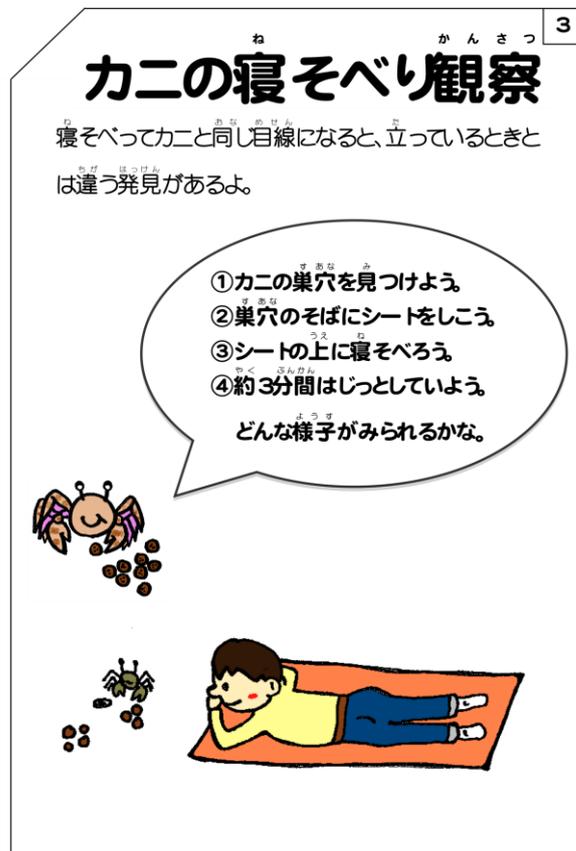
## 1. ねらい

- ・干潟の生きものの目線に近づき、立っているのは気づけない発見があることに気づいてもらう。
- ・生きものの警戒を解くことが、生きものの観察のときに大切であることに気づいてもらう。
- ・生きものに親しんでもらい、干潟との一体感を感じてもらう。

**参考** 『干潟の生きものの観察①②』などの本格的な観察の前にこの活動を行うと、生きものの発見につながる。また、初めて干潟の観察に来たときや生きものに親しんでもらいたいときに実施する。

## 2. 概要

- |          |   |
|----------|---|
| ○所要時間    | 30分   |
| ○時期      | カニの活動が活発な春から秋の干潮時   |
| ○場所      | 砂地の干潟   |
| ○対象      | 小学校低学年以上  |
| ○人数      | 観察に適した場所の広さによる。また、人が多いとカニの警戒を解きにくくなるので留意する。   |
| ○資材      | レジャーシートもしくは大型のゴミ袋、双眼鏡、虫眼鏡   |
| ○事前・事後学習 | 観察した生きものの動きについてまとめ、その生きものの種類や生態について調べる。警戒させずに生きものを観察する方法がほかにあるか考える。   |
| ○応用      | 寝ずに、しゃがんだり座ったりしてもよい。ヤドカリや巻貝等でも実施できる。  |
| ○安全管理    | シートを敷くときに、危険物が落ちていないか確認する。夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。 |



### 3. 実施の手順

#### 導入(5分)

- ・干潟はいろいろな生きものたちのすみかになっているので、そっと静かに干潟に入ろう、と参加者に投げかける。
- ・危険生物や危険箇所等、注意事項を伝える。
- ・観察場所に着いたら、生きものを驚かさないように生きものを目線になって、寝そべって観察することを伝える。

#### 展開(15分)

- ・カニの巣穴を探し、巣穴のそばにシートを敷いて寝そべる。
- ・カニの警戒が解けるまで、約3分間じっとする。
- ・巣穴から出てきたカニの行動(餌を食べる、縄張りの主張や求愛のためにハサミを上げ下げするウェービング等)を観察する。双眼鏡や虫眼鏡を使うとより詳しく観察できる。

#### まとめ(10分)

- ・カニを近くで見た感想を発表してもらおう。
- ・カニがどのような行動をとっていたのか、どのような発見があったのか発表してもらおう。
- ・生きものが警戒しないように配慮することについて気づきを分かち合う。

### 4. 指導のポイント

#### ・干潮にあわせて行う

干潮時間を調べておき、干潮の2時間くらい前に干潟に入ると、カニの活発な活動が見られる。

#### ・観察中は、じっとしていることが肝心

カニをはじめ干潟の生きものは、動くものに敏感で、すぐに巣穴や殻等に隠れてしまう。できるだけ刺激を与えないようにじっとしていると、生きものが普段の暮らしを見せる。また、人が多いと観察する人の集中力が散漫になりやすいので、個人単位でレジャーシートを用意し、各人が離れて行くと観察しやすい。シートが用意できない場合はしゃがんで観察する。

#### ・下見をして、生きものの生息状況を確認する

事前に下見し、カニ等の生きものの生息状況やレジャーシートを敷く場所を確認しておく。また、シートを敷く広さを考え、一度に何人で実施できるか確認しておく。